

令和7年度6月定例教育委員会議事録

【日時】

令和7年6月18日（水）

開会 午後1時30分

閉会 午後4時00分

【会場】

辰野町民会館 104 学習室

【出席者】

10 名

（辰野町教育委員会）

教育長	宮澤 和徳
教育長代理	飯澤 隆
教育委員	垣内 由佳
教育委員	関 政彦
教育委員	萩原 多恵子

（事務局関係）

学びの支援課長	福島 永
学校支援課長	竹村 智博
学校支援課長補佐	宮原 隆史
学校教育係長	小澤 靖一
教育総務係	中沢 大輔

【傍聴者】

0 名

【次第】

1 議事

- (1) 【非公開】 準要保護援助費の認定について
- (2) 県教育委員会及び市町村教育委員会相互の連絡調整について

2 協議

- (1) 【非公開】 学校の様子及び運営上の諸課題
- (2) 上伊那市町村教育委員会連絡協議会総会・研修会について
- (3) 町教育委員会研修視察について
- (4) その他

3 報告事項

- (1) 6月定例町議会一般質問報告
- (2) 市町村教育委員会連絡協議会報告
- (3) その他

○開会

1 開会宣言

2 会期の決定

- ・会期については1日とする。全員異議なし。

3 議事録の承認

- ・承認。

4 宮澤教育長挨拶

こんにちは。初夏の風物詩であり、上伊那の夏祭りのトップを切っての「ほたる祭り」、今年も多くの賑わいをもたらしました。最終の土日こそ、梅雨の影響を受け、水を差された感もありましたが、14日土曜日開催の「ぴっかり踊り」では、雨合羽を身に付けながらも、元気な歓声と共に舞う小学生の姿に、私達も元気を貰いました。今年は日中こそ気温が上がっていますが、朝晩は気温が下がり、蛍の発生も遅れ気味でした。祭りが終わった今週辺りにピークが来るかも知れません。それでも、町外からの観光客は皆、蛍の幽玄な舞いに満足していました。「ほたる祭り」と「新町発足70周年」、「ニュージーランドワイトモとの姉妹都市提携30周年」、さらには「6月定例町議会」も重なり、この半月間は、教育委員会事務局職員も含め役場職員は、通常業務の他にこれらも加わって、大変忙しい日々を過ごしました。しかし今は静寂に戻りました。

今週に入り、一気に夏模様、昨日の辰野町は30℃を超え、32.8℃を記録しています。今日も朝から夏空が広がり、梅雨前線も消えてしまった様です。もう梅雨が明けたのかと思わせますが、今週末辺りから再び雨模様になるとの予報も出ています。色々が狂って来ているようで、この先が心配です。調べてみましたら昨年の今日は、まだ関東甲信は梅雨入りしておらず、6月20日が梅雨入りでした。

5月31日、6月1日は、町内4小学校において、小学生主体の運動会が開催されました。教育委員の皆さんもそれぞれご出席頂き、ありがとうございました。見学され何か感じた事がありましたらまたお聞かせください。私はこの運動会で嬉しかった事が2つありました。1つは、昨年迄はどの学校でも数人、マスクを付けたまま走っていた子どもがいましたが、今年は私が見た範囲では一人も見かけなかった事、2つ目は、短距離走、どの小学校でも転倒する子が必ずいましたが、今年は一人も転倒した子がいなかった事です。

中学校では、6月から7月は中体連の大会です。勝負ですから勝ち負けが付きますが、それ以上に若いエネルギーを完全燃焼させている姿が、実に美しく頼もしく感じています。

さて、今日の定例教育委員会では、人事に係る県教委と市町村教委との連絡調整、準要保護援助費の認定、協議として、学校の様子や上伊那教育委員会連絡協議会総会や町教育委員会の研修視察等です。それではよろしくお願いします。

5 議事

(1) 【非公開】 準要保護援助費の認定について

- ・小澤学校教育係長より説明。承認。

(2) 県教育委員会及び市町村教育委員相互の連絡調整について

- ・宮澤教育長より説明。承認。

6 協議

(1) 【非公開】 学校の様子及び運営上の諸課題について

- ・宮澤教育長より説明。

資料として「学校の様子及び運営上の諸課題」、「6月校長会資料」を提示。

(2) 上伊那市町村教育委員会連絡協議会総会・研修会について

- ・宮原補佐より説明。

出欠の確認。当日の日程確認。

(3) 町教育委員会研修視察について

- ・宮澤教育長より説明。資料として「教育委員会視察研修の推移」を提示。

一案として、東京都の渋谷区、三鷹市。

(4) その他

- ・「あり方検討委員会」の広報に載せる原稿について、原案確認。

Q&Aの形にし、できるだけ難しい言葉は使用せず作成。

7 報告事項

(1) 6月定例町議会一般質問報告

- ・宮澤教育長より説明。資料として「6月定例町議会一般質問報告」を提示。

町議会での質問・回答を宮澤教育長・竹村課長、福島課長から報告。

< A委員 >

部活動の地域移行について関心を持っている保護者の方が多いと思います。この地域移行に関する情報等はどの様に発信していく予定でしょうか。小学校にお子さ

んがいる保護者も関心が高いので、知りたいと思っている方がいらっしゃいます。どこかの市町村で部活動は無くすとされたところもあったと思うので、保護者の中には来年から急に中学校から部活動が無くなるのではないかと心配されている方もいると思います。そうではないという事を示して頂けるとありがたいです。

<宮澤教育長>

他の市町村では回覧板で地域展開しているところもあります。子ども達の活動を保障していく。混乱させる事が無い様に進めて行きたいと思います。

<福島課長>

中学校長と話をしていますが、「地域展開」と名称を変えた理由は、中学校の部活がそのまま各地域の大人達が面倒を見る部活になるという移行をするイメージも持っている方が多いと思いますので、「展開」という名前に変えました。中学の部活は学校で管理されて、我々は社会体育の分野として、中学生を受け入れる受け皿を作って、中学校の部活動が無くなった時に、受け入れますという感覚でいてもらった方が良いですねと話をして貰っています。保護者の方々は、中学の部活が地域にシフトすると思っている方が多いという事で、ここで推進計画もできましたので、また改めて説明させて頂く機会は作らせて頂く予定です。中学校とも日程を合わせて、推進計画とチラシを作成してお渡しして話が出来ればと思います。小中含めて考えたいと思います。実施計画の中にも、中学校の部活動は保証していくと記載してありますし、受け皿ができるまでは中学校に部活動を担って頂く事になりますし、国としての方針は、平日も含めて中学校の部活動を無くして、地域がそれを担っていく事としていますので、令和8年度で休日の部活動を地域に移行していくとしています、その先に平日の部活動もありますので、当分の間、中学校から部活動が無くなるという事はありません。

<B委員>

課長から、令和8年度迄でその先に平日の部活動があるというお話でしたが、少し話は飛んでしましますが、広域的な考え方というのが、やっていく間にも人口が減っていくので、部活動の人数も減っていく事が予想されます。今は各市町村でやっていますが、広域的な考えは進んでいないと思います。まだ町の中でできたばかりですが、広域でやっても1チームとなるものも出てきてしまうのではないかと心配しています。

<福島課長>

基本的にはシニアみたいなものは、広域と言っても行政がやっているものではない

く、民間のところですので、今の所、範疇には入れていません。今も陸上部で全国大会を目指してやっている子達は、クラブチームに入って練習していますので、今は、その他の子達がやりたいという種目の部活動や、部活動で上を目指したいという子達をどうするかをまず考えていく。まずはパイの大きいところからやっていく、広域化は次の段階かと思っています。少子化の問題でやっていく内に、中学校の部活も整理されていく事が予想されますし、お話された通り、実質的に広域化してもできなくなる事も考えられますが、そうなってしまうと諦めて頂くしかなくなってしまいます。ですが、今の子ども達のやりたい事を保障していくという事を、できる限り団体競技をどうしたらチームが組めるかという事等を考えていきたいと思っています。

(2)市町村教育委員会連絡協議会報告

- ・資料として「6月市町村教育委員会連絡協議会（報告）」を提示。

8 閉会